

1. 開催日時 平成 26 年 6 月 1 日 15 時 10 分～17 時 00 分
2. 開催場所 広島国際会議場地下 2 階ダリア② (広島県広島市中区中島町 1-5)
3. 有効出席数 正会員総数 1,866 名中 1,107 名 (内 当日出席者 107 名、議長委任者 922 名、書面表決者 78 名)
4. 審議事項、議事の経過の概要及び議決の結果

<議長の選出>

定刻、当法人定款の規定により、小藤事務局長が議長の選出について出席者に諮った結果、総会に出席した正会員の中から長橋良智さんが議長に推薦され選出された。議長は総会の開会を宣言、事務局より正会員総数、有効出席数、書面表決結果の報告を行い、議長は本総会が適法に成立する旨を宣した。続けて、議事録署名人の選出について出席者に諮った結果、山根弘和さん、山内圭子さんが選出された。また、本日出席の理事・監事の紹介があり、議案の審議に入った。

<第 1 号議案> 平成 25 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、田頭理事より事業報告の説明が、壇野理事より決算の説明があった。また、飯島監事・平井監事より、「監査の結果、法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産及び収支の状況はいずれも適正妥当であった」との監査報告があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 2 号議案> 平成 26 年度事業計画並びに予算について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、野口 (和) 理事より事業計画の説明が、酒井理事より予算についての説明があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 3 号議案> 平成 26 年度役員の選任について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、岡田理事より、平成 26 年度の理事として上井靖、久保隆、酒井麻里、野口和裕、野口砂絵子、椿恵子 (通称: 疋田恵子) 以上 6 名の再任と荒金雅子、飯島邦子、杉村郁雄、鳥羽秀人、平井雅以上 5 名の新任が提案された。あわせて、監事に中西百合、平山猛の新任が提案された。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

以上をもって本日の議事は終了し、議長は 16 時 30 分閉会を宣した。

2014 年 6 月 1 日

住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3 丁目 12 番 8 号
名称 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以上、本会議の議事及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人はこれに署名捺印する。

2014 年 6 月 1 日

議 長 長橋 良智

議事録署名人 山根 弘和

議事録署名人 山内 圭子

総会議事資料誤植訂正表

誤			正		
P21 4. 交流・親睦事業			P21 4. 交流・親睦事業		
事業内容	実施日時	実施場所	事業内容	実施日時	実施場所
地域イベント	4月	広島	地域イベント	4月	福山

<第1号議案> 平成25度事業報告並びに決算及び監査報告について

【質疑応答】

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 監事の指摘にあった、会計押印不備等について。電子決済等の仕組み導入など、会計処理について改善の予定や計画はあるか？

回答) 会員管理等のシステム化は進めてきた。今後は会計システムだと認識をしてはいるが、まだ取り組めていない。会計システムは難しい部分もあるが、現状本部会計処理を1人にまかせていることから、今年度検討しなければならないと考えている。

質問) 去年の総会で、退会者が多い件で話題になった。今回資料に入っていないが、新会員を獲得する動きについてどのように考えているか？補足資料45の内容ではなく、実状はどのようなものかを知りたい。

回答) 300名入会、200名退会するサイクルです。会員に関するスタンスとしては、「来る者は拒まず、去るものは追わず」と考えている。

質問) 想定外の事態に対応するための予算は、バッファとして予備費を一元管理すると書いてあるが、プラスで残っているのは実際に効果的に執行されたという意味か。

回答) 前期に予算の大幅なマイナス計上を行なったため、今期は各支部で持っていたバッファを一元化した。その結果、マイナス200万円まで圧縮した。また、新規事業としてIAF共催、円卓会議、白書(今期執行分)を実施できた。

<第2号議案> 平成26度事業計画並びに予算について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

意見) 日本の経済環境の変化から考えると、資産目減りを憂慮して資産運用を考えてはどうか。

回答) 不測の事態に動かせるように単年度の事業収入額程度を流動資産化している。しかし、それ以上に増えているので、運用については今後の参考にさせていただく。

質問) 会員のボランティアで支部活動が運営されているが、一部の人に大きな負担がかかっているように見える。自主的活動だとしてもこれでいいのかと思うこともある。会計やWebを外注して、ファシリテーションを学ぶ事に集中してはどうか。

回答) FAJ全体の業務は一部アウトソーシングしているが、支部運営はボランティアで行っている。運営のやりとりがファシリテーションを学ぶ機会にもなるが、ボランティアに取り組む業務量を超えていることもあるのではないかと認識している。ただし、その負荷がアウトソーシングで解決できるものかどうかは、確認する必要があると考えている。

意見) 円卓会議にメンバーとして参加したが、未来を作るプロセスに関わることができ貴重な経験が出来てたいへん良かった。新規事業についても同様によろしく願いたい。他の会員の皆さんで思いがある方はぜひ参加をお勧めしたい！

質問) 実践支援プロジェクトに参加したいが、30万円という予算計上である。「全国で横断的に」と書いてあるが(補遺資料 #21)、これには交通費が計上されていないように思われる。Skype ミーティングを進めるだけで、後は現地任せということだろうか。

回答) 現時点、どういった形で進めるのかは未決定。

質問) プロジェクト予算30万円に対し、支援助言事業のみ50万円となった根拠はあるのか。

回答) 初年度という事で多めに計上している。円卓会議を参考にした。ただし、科目は仮置きしている。

質問) 広報・コミュニケーション活動について。「思わず会員になりたくなる～」とあるが、先ほどの会員獲得のスタンス「来る者拒まず、去る者追わず」と異なるのではないか。ここで何をやりたいのかがわからない。

回答) もっと広報に力を入れなければいけないのは認識しているが、内容は詰められていない。そのために、理事会主導で参加者を募り、プロジェクトを行う予定。ウェブのコンテンツの充実化と、会員獲得スタンスは不整合を起こしていないと認識している。

質問) 内部に向けて広報も重要ではないか。総会出欠受付等、会員の反応が悪かったが。

回答) 内部に向けては、会員ページの改訂などをこれから検討していく。

質問) 先の議論であったように、支部運営活動の一部でアウトソーシングを導入することが最適かは不明だが、支部運営側から検討して、理事会に提案しているのか。

回答) 理事会への提案は歓迎する。

質問) 東京でのシンポジウムについて、東京は毎回の定例会で150人、会員600人とボリュームが大きいですが、シンポジウムはどれくらいの規模を想定しているか。

回答) 現在、規模400名、3フロア貸切で、両国のKFCを予約している（IAF、支部イベント開催実績あり）

質問) 東京支部担当理事から回答されたが、シンポジウムは調査研究事業であり、FAJ全体として取り組む事項ではないか。

回答) 東京支部担当理事と調査研究担当理事を兼任している立場で答えた。

<第3号議案> 平成26年度役員を選任について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 今年度理事が11名で、1名増員になった理由は？

回答) 昨年度は役員推薦から票の格差を鑑み11名を選ぶことができず10名となった。一方、今年は推薦票数から11名を選ぶことができた。

意見) 前年度に監事をやった方が、期を直結して理事候補になった。理事になるために、監事として手心を加えたのでは？という疑問を生まないよう、期を直結しての理事が監事に、監事が理事にならないような予防策を、長期的な視点で検討した方がいいのでは？

回答) 現在の役員選任プロセスは規定に沿って適正に運営されている。今後より望ましい選び方を検討したいと考え、理事会でも指摘の点を問題として挙げて、長時間検討してきた。その結果、役員を「理事と監事の選出を分けて選出する」事を基本方針とすることを、理事会として決定した。

以上